



2024年3月1日

各位

会社名 帝国繊維株式会社  
 代表者 代表取締役会長執行役員 白岩 強  
 (コード番号 3302 東証プライム)  
 問合せ先 取締役副社長執行役員 岡村 建  
 (TEL. 03-3281-3022)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、東京証券取引所による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の要請を踏まえ、改めて資本収益性や市場評価に関する分析・評価を実施し、その改善に向けた方針及び具体的な取組みについて取締役会等で検討を行いました。その内容を下記のとおり、お知らせいたします。

記

#### ■PBR 向上に向けた方針と目標

		テイセン2025 (最終期2025年12月期)	未来創造計画 (最終期2031年12月期)
<b>・防災事業を進化させ、収益力の持続的拡大を図る</b> <b>・資本効率を意識した取組みを実践する</b>			
成長戦略		<b>【主要テーマ】</b> ・送排水ビジネスの拡大 ・セキュリティビジネスの開拓 ・防災特殊車輛ビジネスの創造 ・メンテナンス業務の事業化	<b>【目指す姿】</b> ・起こりうる災害に備えた事業の深化・拡大 ・環境変化・技術革新への対応・活用 ・防災レジリエンス(縮災)向上へ貢献 ・人材育成/他社との協業・連携/成長投資
ROE向上	数値目標	・連結営業利益50億円以上 ・連結経常利益60億円以上	・連結営業利益70億円以上 ・連結経常利益80億円以上
	資本効率 資本配分	・中長期的にROE8%及びそれ以上の水準を安定的に実現する ・投資資金の確保と株主還元の拡充、人的投資・成長投資(M&Aを含む)を実施する	
	株主還元	・総還元性向40%以上 ・機動的な自社株取得の実施を検討	
PER向上	ガバナンス	・ESG経営の実践 ・リスク対応力の強化	
	IR/SRの強化	・機関投資家、個人投資家とのコミュニケーション活発化、PR活動強化 ・当社の成長戦略への理解浸透	

#### ■PBR 向上に向けた取組み

##### ①ROE 向上

- ・高収益ビジネスの維持・拡充を図る
- ・長期的視点で、保有資産を活用し、成長に向けた投資を実施する
- ・株主還元の強化・拡充

②PER 向上

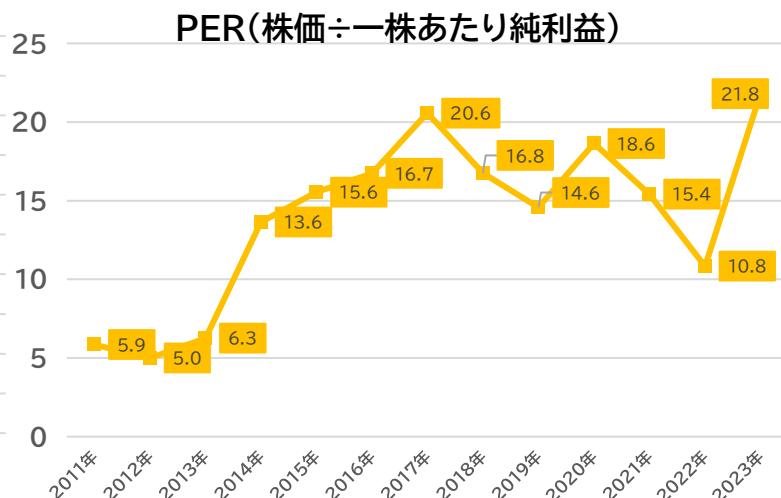
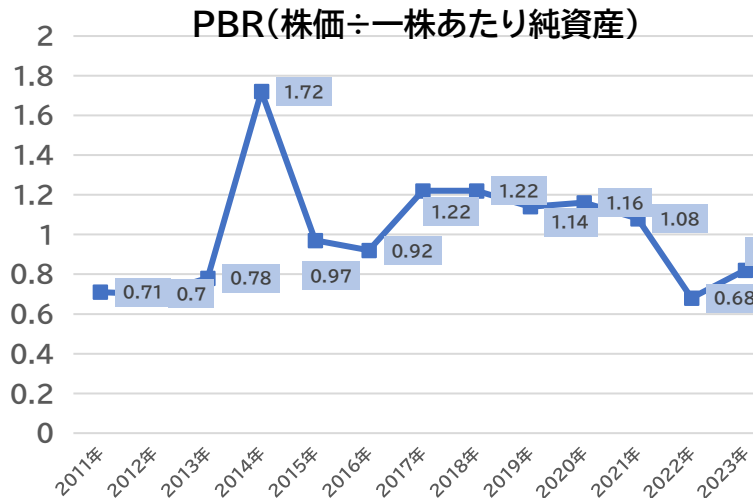
- ・コーポレートガバナンス強化
- ・リスク対応力の強化
- ・IR／SRの強化

詳細は、添付資料をご参照ください。

以 上

「資本コストや株価を意識した  
経営の実現に向けた対応」

# PBR向上に向けた取り組み(1) 現状分析・課題認識

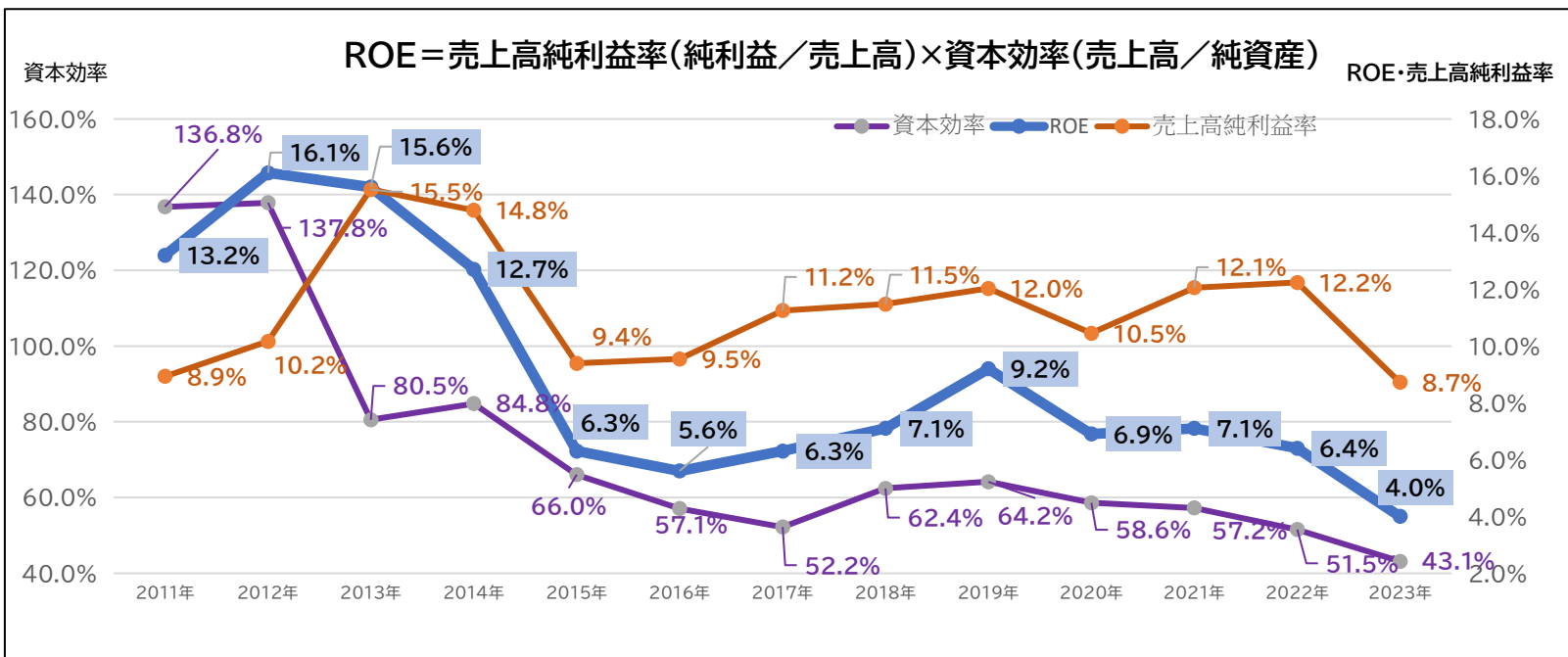


## 現状分析

■PBR(株価／一株あたり純資産)  
 ・2014年1.72倍(ROE12.7%・PER13.64倍)をピークに概ね1倍前後で推移  
 ・2023年は0.82倍(ROE4.0%・PER21.8倍)

■PER(株価／一株あたり純利益)  
 ・2014年以降上昇傾向、PER水準は比較的高い水準で推移  
 ・防災事業に対する成長への期待が背景にあるものと認識

■ROE(純利益／純資産)  
 ・東日本大震災直後(2011～2014年)のROE12～16%水準に対し、直近では概ね6～7%で推移  
 売上高純利益率は12%前後で推移する一方、資本効率(売上／純資産)は低下傾向  
 ・2023年は4.0%に低下。主に売上高純利益率の低下が主因であり、大口案件が端境期に入った等によるもの  
 ・当社が認識する資本コストは概ね5%前後、一方過去の株主提案時に提示された投資家による資本コストは7.8%



## 課題認識

■ROE向上  
 ・資本効率の改善  
 ・売上高純利益率の回復及び伸長

■PER向上  
 ・ガバナンス強化  
 ・当社の成長に対する認識獲得(IR活動強化)

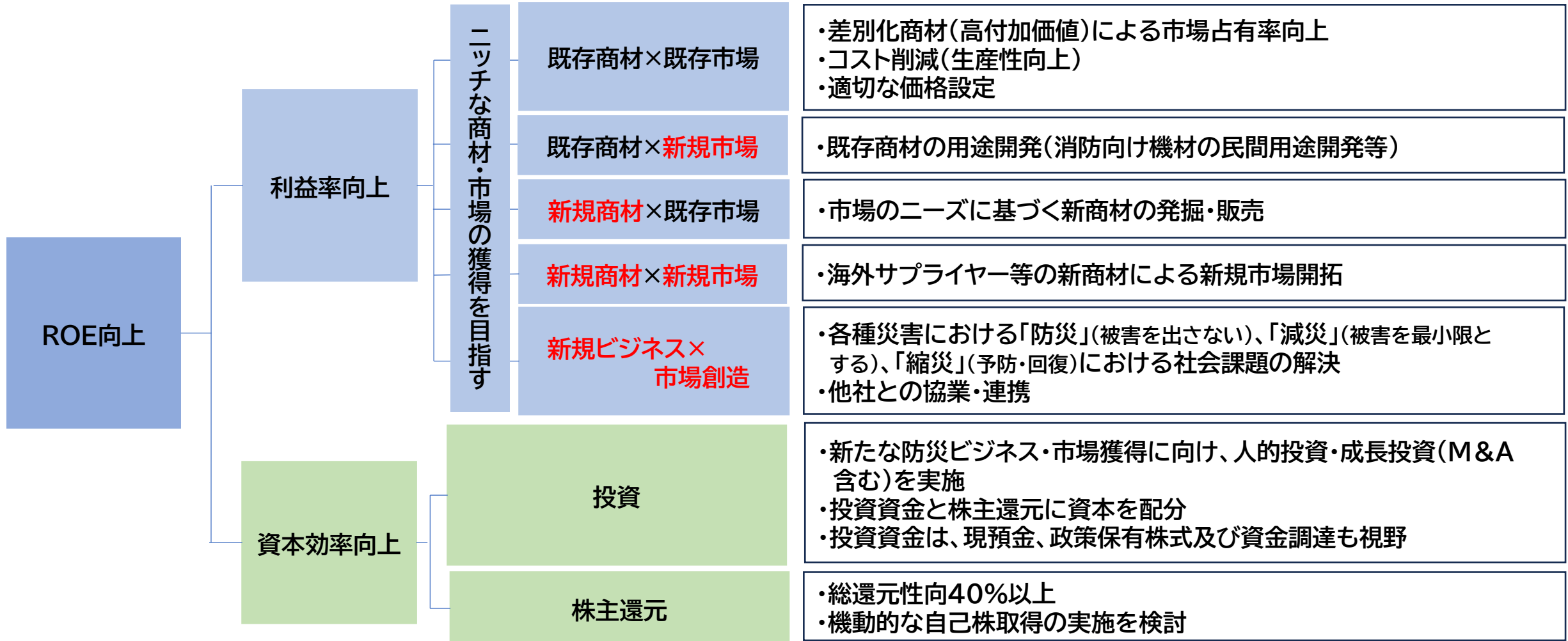
## PBR向上に向けた取り組み(2) 方針と目標

- ・防災事業を進化させ、収益力の持続的拡大を図る
- ・資本効率を意識した取り組みを実践する

		テイセン2025 (最終期2025年12月期)	未来創造計画 (最終期2031年12月期)
成長戦略		<b>【主要テーマ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送排水ビジネスの拡大</li> <li>・セキュリティビジネスの開拓</li> <li>・防災特殊車輛ビジネスの創造</li> <li>・メンテナンス業務の事業化</li> </ul>	<b>【目指す姿】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起こりうる災害に備えた事業の深化・拡大</li> <li>・環境変化・技術革新への対応・活用</li> <li>・防災レジリエンス(縮災)向上へ貢献</li> <li>・人材育成／他社との協業・連携／成長投資</li> </ul>
ROE向上	数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結営業利益50億円以上</li> <li>・連結経常利益60億円以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結営業利益70億円以上</li> <li>・連結経常利益80億円以上</li> </ul>
	資本効率 資本配分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的にROE8%及びそれ以上の水準を安定的に実現する</li> <li>・投資資金の確保と株主還元の拡充、人的投資・成長投資(M&amp;Aを含む)を実施する</li> </ul>	
	株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総還元性向40%以上</li> <li>・機動的な自社株取得の実施を検討</li> </ul>	
PER向上	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ESG経営の実践</li> <li>・リスク対応力の強化</li> </ul>	
	IR／SRの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関投資家、個人投資家とのコミュニケーション活発化、PR活動強化</li> <li>・当社の成長戦略への理解浸透</li> </ul>	

## PBR向上に向けた取り組み(3) ROEの向上

- ・高収益性ビジネスの維持・向上を図る
- ・長期的視点で、保有資産を活用し、成長に向けた投資を実施する



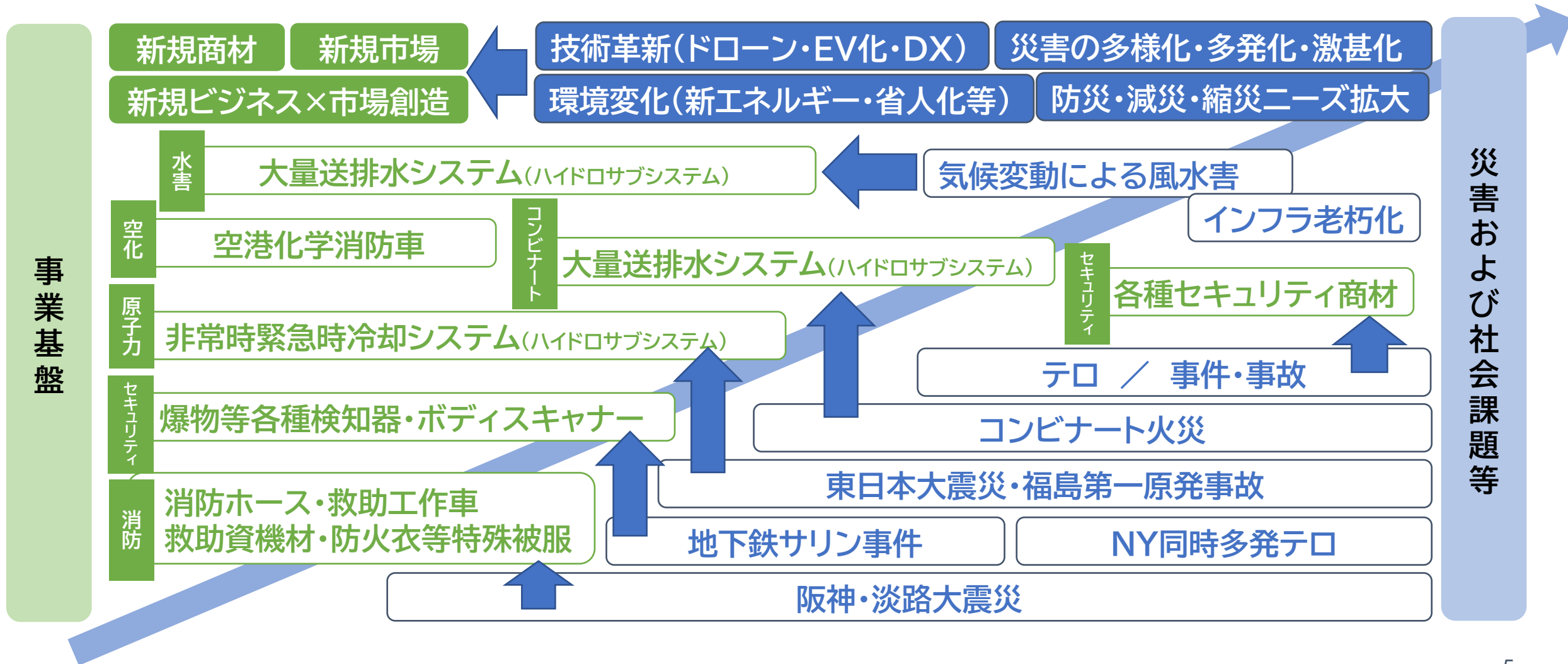
## PBR向上に向けた取り組み(4) 長期的な事業戦略

- ・多発化・激甚化・多様化する各種災害に対し、環境変化・技術革新等を伴い対応すべき領域は大きく広がる
- ・防災レジリエンス(縮災=予防と回復)向上という社会課題に取り組み、新規ビジネス・市場創造を目指す

	火災	震災	風水害・土砂災害	火山災害	原子力災害	鉄道災害	航空機災害	テロ
防災 (被害を出さない)						新規商材 ×新規市場	・ボディ スキャナー	・CBRNE商材 (検知器)
環境変化(新たなエネルギーへの対応・省人化等)								
減災 (被害を最小限とする)	・消防ホース ・防火衣 ・高所車椅子 救助車 ・大量送排水 システム(HS)	・救助工作車 ・救助資機材 ・高度救命機材	・大量送排水 システム(HS) ・強力吸引車	新規商材 ×新規市場	・非常時緊急時 冷却システム (HS)		・空港化学 消防車	
縮災 (予防と回復)	復旧・復興等に関わる 「新規ビジネス×市場創造」							

## PBR向上に向けた取り組み(5) 長期的な事業戦略

- ・事業領域の拡大と深化の系譜 → これまでに獲得および展開中の事業基盤(ex.ハイドロサブシステムの用途開発等)
- ・今後の新規商材、新規市場および新規ビジネス×市場創造 → 今後獲得する事業基盤(投資/他社との連携)



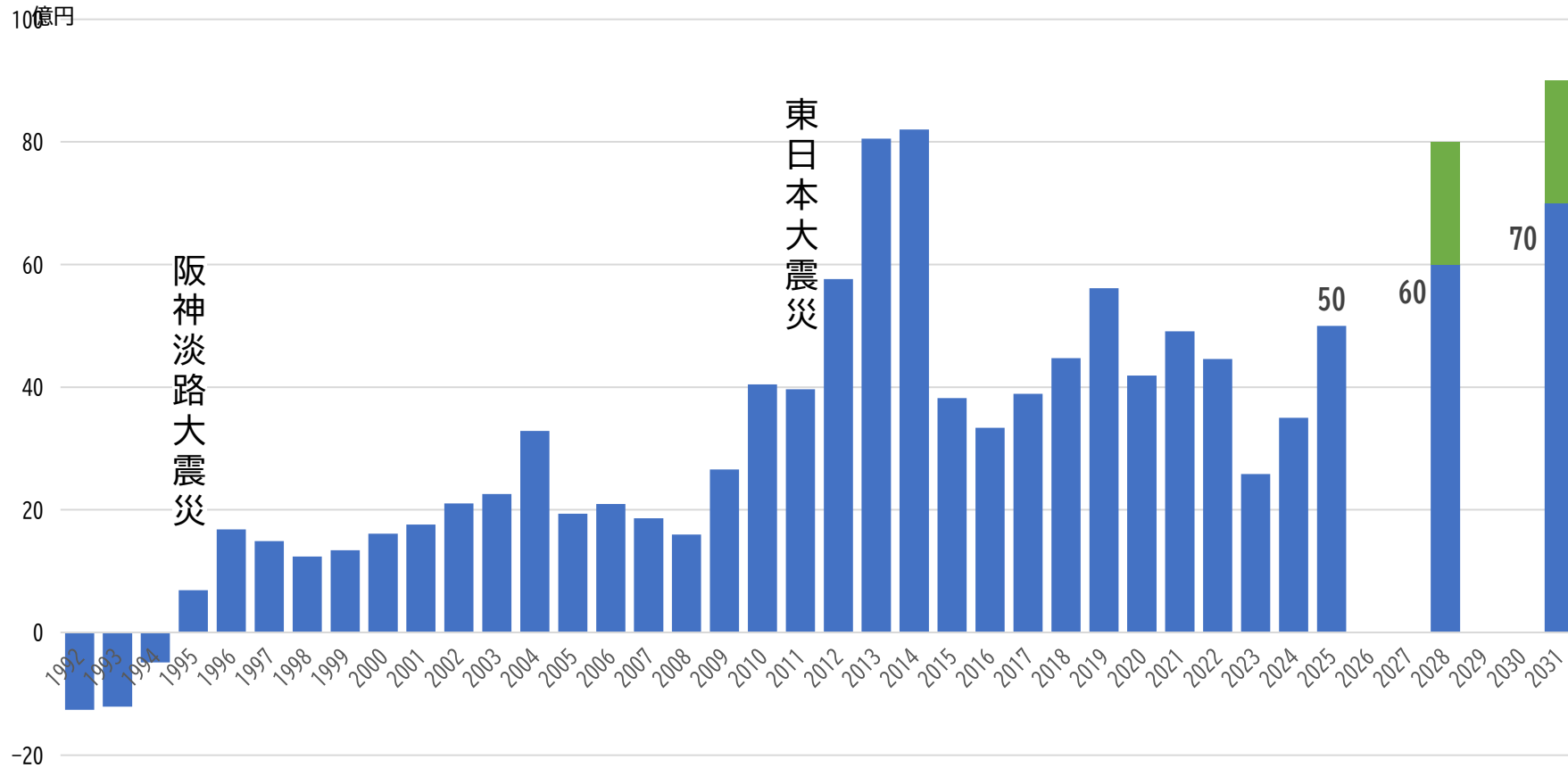


## PBR向上に向けた取り組み(6) 長期的な事業戦略

- 既存の事業基盤による業績拡大
- 今後獲得する事業基盤による業績拡大

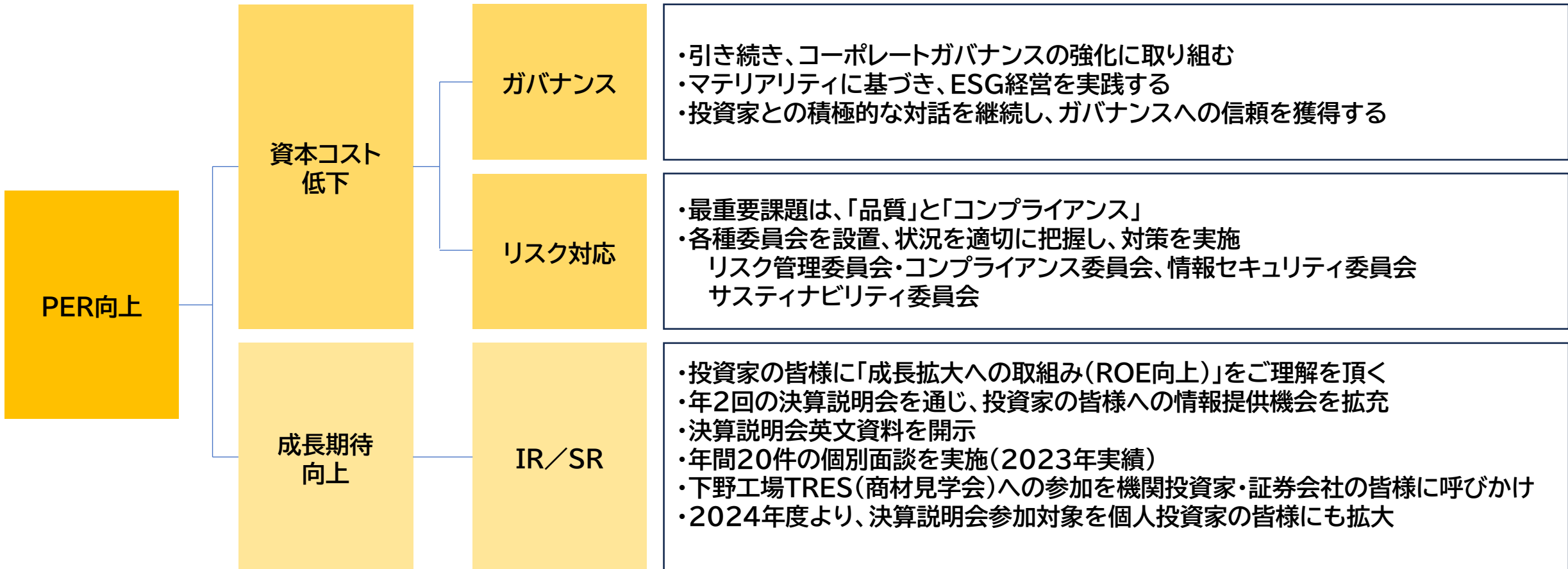
【既存商材×既存市場】	【既存商材×新規市場】	【新規商材×既存市場】
【新規商材×新規市場】	【新規ビジネス×市場創造】	

### 連結営業利益推移及び今後の展望



## PBR向上に向けた取り組み(7) PERの向上

- ・コーポレートガバナンスの強化及び投資家との対話を通じ、投資家からの信頼を獲得する
- ・各種委員会を活用し、適切なリスク管理・対策を実施する



## PBR向上に向けた取り組み(8) 投資戦略・資本配分

- ・中長期的な視点に立ち、事業領域の深化・拡大に沿った成長投資(M&Aを含む)を実施
- ・事業戦略に沿ったテーマを選定し、研究開発投資を実施
- ・人的投資、システム投資・DXの推進などの分野についても投資を強化

<5年間(2024~2028年)累計予想>

収入	支出
<b>営業CF 200億円</b>	<b>株主還元 90億円</b>
<b>資金調達枠 90億円</b>	<b>投資枠 200億円</b>  人的投資 システム・DX投資 研究開発投資 更新投資

収入	
<b>●営業キャッシュフロー 200億円</b> 純利益+減価償却 計250億円* — 運転資金増加 50億円 <small>*目標値に基づく5年間平均 純利益44億円+減価償却7億円÷50億円</small>	
<b>●資金調達枠 90億円</b>	資産活用+資金調達
支出	
<b>●株主還元 90億円</b>	総還元性向 40% <small>*5年間平均 純利益44億円×40%÷18億円</small>
<b>●投資枠 200億円</b>	M&A含む成長投資、人的投資、システム・DX投資、研究開発投資 更新投資

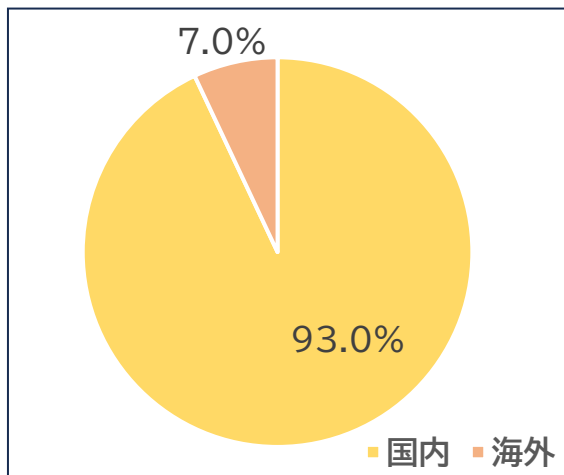
## PBR向上に向けた取り組み(9) 投資家との対話の実施状況等

### ■2023年活動実績

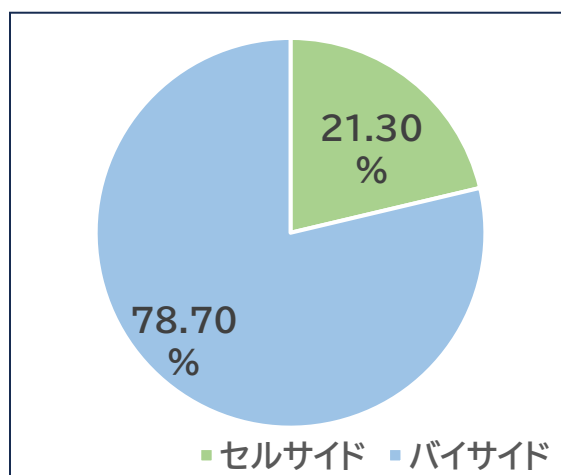
種別	回数・社数	主な対応者
決算説明会	2回(35社)	代表取締役会長、同社長、取締役副社長
商材説明会 (下野工場)	1回(6社)	取締役副社長、経営企画部スタッフ、 営業担当部長他
個別面談	20社(27回)	取締役副社長、経営企画部スタッフ

<投資家の内訳> 説明会参加及び個別面談実施(延べ61社)

<国内・海外比率>



<バイサイド・セルサイド比率>



### ■主なテーマ・投資家の関心事項

- ・ 事業内容（市場、市場シェア、競合、商材等）
- ・ 防災業界の仕組み・動向（入札制度、法律等）
- ・ 事業計画
- ・ 政策保有株式
- ・ 資本効率、資本配分 等

### ■経営陣へのフィードバック

種別	頻度
IR活動状況	四半期／年間総括
投資家との対話の状況	四半期／年間総括
株式関連指標・株価情報	四半期／年間総括

### ■株主・投資家との対話に基づく主な対応

要望	対応
IR情報の充実	決算説明会・商材説明会の開催、ESG関連情報開示
英文資料	決算説明会資料の英文化及びHPにて開示
株主還元強化	株主還元を強化(配当性向40%)